

●テーマ研究分科会：その3「協働を推進するための具体的仕組みを提案しよう！」

ひと	場所	お金	情報
協働コーディネーター育成ミッション	①名称	①名称	①名称
主体 ・市 ・市民協働課が責任 ↓ 対象は？ ・3年計画（初・中・上級）目標100人修了（市職員：70人、市民30人） ・市民（実績・経験のある人）←委嘱 手当	眠れる市民をつつき起こせ！	（仮称）あんねっと基金	持続可能な市民活動の中間支援の団体の設立
	②課題	②課題	②課題
	協働可能なNPO法人（組織化された市民活動団体）が不足している 活動に取り組む市民が少ない	これから始めようとしている小さな団体向の支援が無い 支援を受ける時の手続きが大変 誰が募金活動を行うのか？（行政の営業活動？） 個人からの寄付が集まらない 個人の寄付、団体の寄付を集める工夫は？ 基金の財源が集まらない（寄付意識が低い） 募金→任意で。集める難しさを理解してもらう為には？ 募金・寄付金は額が変動する→予算化しにくい 寄付の使われ先が心配 基金の使用目的の明確化 寄付者のメリットは？ 企業からの寄付→企業にとってのメリットが要る 寄付したいと思ってもらうにはどうすればいいか 団体支援のためのしくみ作り→具体的な団体	情報の発信？情報の受信？←両方いるね！！ サラダのように、五目ごはんのように キャッチボール 交流 市民主体⇒団体 市民センターとのコンタクトもできる 協働する 発信する団体を新たに作る→ホームページ、情報誌、くちこみ ⇒豊後高田 昭和の町 のように！ 活動意欲のある市民 つながれったー タケノコのように！ 社協がもう少し幅を広げる 主体は何に！？⇒場所がほしい 人もいる
コーディネーターの育成	③仕組み	課題への対応	③具体的な仕組み
やっぱり現場を知らないと！ フィールドワークが必要 人脈 市民から学ぶ 共に課題を解決する ハイレベルな研修を←ハイレベルとはどれくらい？ 人を育てるには時間がかかる ファシリテーター能力は必須	市民活動・ボランティア活動に参加したくなるようなきっかけの場を提供する 協働事業を行う場を提供する ↓ そのためには ↓ 関係機関（※）の見える化（情報・人・資材等）→市民が比較できるような情報開示 関係機関（※）の連携 登録情報 支援内容 連絡会議の開催など 関係機関（※）とは…？→コーディネーターの存在 市民活動センター 生涯学習ボランティアセンター 社協ボランティアセンター 青少年支援ボランティアセンター 事業所ボランティアセンター 地縁型団体 テーマ型団体	●ハードルが高い →メニューを増やす ●主体 →イベントによる収益を使う（フェスティバルをデンプークでやる等） →安城市＋いろんな団体 ●財源の確保 →寄付の普及PR →マッチングギフト ●使い道 →目的つき寄付 ●寄付者のメリット →寄付金控除 →法人税の減税、市民税の控除	ハブ的な情報システム 既成団体との協働 情報を集める 社協・市民交流センター 市議会議員・市役所 公民館・町内会 活動・場所が必要 場所には人が必要 人・団体のあり方 情報サイト あんみつ⇒ http://www.an-mitsu.jp/ 情報誌⇄コーディネーター⇄かけこみ寺 なこうどライブラリアン 情報だけでなく コーディネートなど 総合的に行う （情報誌、TV等） ↓ 市が成立を助ける ↓ 交流センター等を活用する
コーディネーターの素養	その他の議論は裏面へ	③仕組み	
役割りを明確にする 市民から受け入れられる人（信頼） 専門性の高い人 熱意のある人を←市民はみている もともとある素質、才能のある人		市民、市、企業、基金、市、イベント収益、法人税控除、マッチングギフト、〇〇実行委員会	
補足			
社協も研修の協力を（協賛） ボランティア＋地域福祉 コーディネーターなら社協が責任をもつ 分野を限定すべきでは？↓ 例 ①ボランティアコーディネーター ②地域づくり・防災C ③生涯学習C ④協働コーディネーター（狭義）			

